

# 今月の逸品

NO. 72 2025. 4~2025. 6



## 学芸大学新聞 (全2冊：復刊4号～111号)

昭和30年(1955)11月4日～昭和42年1月26日

学芸大学新聞は、昭和30年(1955)より月刊で発行された学生新聞で、本学教育資料館には、昭和30年11月4日発行の復刊4号から同42年1月26日発行の111号までが製本された状態で所蔵されています。これらは、平成20年(2008)11月、かつて京都学芸大学新聞会に所属していた5名のOB・OG(谷川宏氏：昭和32年入学。兵井清次氏：昭和31年入学。大森晃氏：昭和32年入学。糸谷千恵子氏：昭和34年入学。福井孝己氏：昭和35年入学)によって本学教育資料館に寄贈されました。管見の限り、本学図書館にはもちろん全国の大学図書館や国立国会図書館にも本新聞は所蔵されておらず、きわめて貴重な資料といえます。

新聞記事から得られる情報も貴重です。たとえば、本学は昭和32年9月に紫明地区(現在、附属京都小中学校がある地域)から現在の藤森地区へと移転していますが、その移転計画(当初は、藤森以外の候補地もありました)は、紫明本校と桃山分校(現在、附属桃山地区学校園がある地域)との統合計画と並行して進められました。学芸大学新聞は復刊1号より、この統合計画に大きな関心を寄せており(復刊4号による)、移転及び統合の計画がどのように進められたか、その経緯はもちろん、それらに対して当時の学生がいかなる眼差しを向けていたかも知ることができます。これ以外にも、大学のカリキュラムや学園祭、学生運動や政治・社会問題、国際情勢に至るまで、時評・論説・書評を含め、多彩なテーマが論じられています。

紙面下方には、これも新聞の常ですが、広告が並びます。当時の学生がどんな本を読み(大学近くには書店がいくつもあったらしい)、映画や舞台を見ていたか、外食はどこで何を食べていたか、おしゃれにはどんなアイテムを使ったか(男子学生にはポマードが人気?)、そんなことを考えながら新聞をめくってみるのも、楽しいです。

執筆者：中村翼(社会科学科准教授)

※附属図書館で展示しています。